

# 第10回「一宮の魅力ある海岸づくり会議」議事概要

日 時：平成26年10月5日（日） 午後2時～4時30分

場 所：一宮町保健センター 3階大会議室

参加者：近藤会長，宇多副会長，清野委員，秋山委員，近藤委員，芝本委員，鶴沢委員，相委員，谷口委員，川上委員，東条委員，木村委員，小池委員，小柳委員

欠席：小栗山委員，森田委員，山口委員，秦委員，御園生委員，小松委員，大橋委員，関委員，黒川委員，利根川委員，岡本委員，

## 【主な議事内容】

### 1. 予定していた議事

#### (1) 第9回会議の議事概要について

- ・特に指摘事項等はなかった。

#### (2) 予備試験のモニタリング結果（中間報告）について

- ・投入した500m<sup>3</sup>粗粒材の拡散状況の把握が必要であり、投入前と投入後の地形の比較も必要である。（川上委員）
- ・粗粒材の投入量が少なく、測量等で把握することは難しい。（宇多副会長）

#### (3) 本試験の計画について

- ・会議時間の関係により、今回の会議では割愛し、次回会議に繰り延べした。

#### (4) 小突堤の施工状況について

- ・特に指摘事項等はなかった。

### 2. 粗粒材養浜に関する議論

- ・最近のチョウセンハマグリ繁殖は、沖合養浜によるヨブや瀬（バー・トラフ地形）が形成されたことが要因と考えており、このような地形を維持することが重要である。（近藤委員）
- ・チョウセンハマグリの生息地が再生された地形を保全することが必要である。（近藤会長・清野委員）
- ・粗粒材養浜の試験施工に反対する地元の意見もあった。（近藤委員）
- ・粗粒材養浜の予備試験については、海づくり会議において了承されており、本試験を含めて段階的に進めることとしている。（近藤会長）
- ・粗粒材ではなく、浚渫土砂等の現地砂で養浜することは考えられないか。（近藤委員）
- ・これまでの侵食状況から明らかのように、現地砂の養浜では、砂が流出して砂浜の維持や回復は図れない。ただし、全域で粗粒材養浜を進めることは利用や環境に影響が生じることは明白であり、現地砂による沖合養浜も必要であることは理解している。（宇多副会長）
- ・粗粒材養浜に代わる即効性のある侵食対策はないのか。また、対策としてヘッドランドだけで十分だとの意見もある。（近藤委員）
- ・現時点では粗粒材養浜に代わる有効かつ現実的な侵食対策はなく、ヘッドランドだけでは侵

食が進行して長期的には砂浜が消失する事態となる。(宇多副会長)

- ・粗粒材が沖に移動する可能性はないか。(川上委員)
- ・神向寺海岸の例では汀線に沿って分布している。(宇多副会長)
- ・粗粒材養浜がウミガメの産卵に影響する可能性が全くないとは言えないが、粒径の影響については解明されていない。また、砂浜幅についても具体的な数値は明らかでない。(秋山委員)
- ・一宮海岸の粗粒材養浜については、神向寺海岸における成功事例を根拠としているが、細砂で覆われることを証明できるのか。また、ヘッドランド間の中央部の状況を見ると成功しているようには見えないので、写真等による詳しい説明が必要である。(近藤委員)
- ・神向寺海岸の粗粒材養浜について、地元の声・意見を聞きたい。(近藤委員)
- ・一宮海岸の粗粒材養浜に向けて、神向寺海岸の粗粒材養浜の再検証を行うことが必要である。(秋山委員)
- ・投入した粗粒材の上を現地砂が覆うことが前提となっているようであるが、粗粒材養浜の投入量と影響の関係を把握することも重要である。(清野委員)
- ・5,000m<sup>3</sup>の粗粒材を投入する本試験施工の状況(ダンプ運搬等の状況)について、地元住民への説明が必要ではないか。(近藤委員)

### 3. その他

- ・神向寺海岸における粗粒材養浜に関する検証および地元の意見聴取については、聴取方法も含めて事務局が調整する。(近藤会長)
- ・粗粒材養浜に対する地元の意見を整理するとともに、委員に情報提供を行い、委員が地元との板挟みにならないようにすることが必要である。(清野委員)
- ・一宮海岸のウミガメの産卵の特徴として、上陸数の50%がUターンすることがあり、ウミガメの保護にはUターンを減らすことが重要である。(秋山委員)